

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム いわいずみ

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000047		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームいわいずみ		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町尼額字下坪41-2		
自己評価作成日	平成26年7月5日	評価結果市町村受理日	平成 26年 10月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivovsoCd=0393000047-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JivovsoCd=0393000047-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 30 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれホームの中から四季の移り変わりを思い思いの場所から眺める事が出来ている。四季を通してホーム回りで梅の収穫、栗拾い、柿取り等実りの喜びや満足感を実感出来ている。入居者と職員のコミュニケーションを大切に散歩や買い物、ドライブ、知人や兄弟の面会等一人ひとりのペースで生活が出来ている。近隣の方にはホーム回りを、夏には草取り、冬には雪かき等行って頂き、地域の方々から野菜や果物の差し入れもあり支えられて生活出来ています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、自然豊かな山あいに位置し、近くに点在する人家、其処ここに水田や畑などが臨まれる自然環境である。運営法人に変更があるも平成15年9月開設以来、地域行事に参加し、広報誌の地域配布、子ども達の花火大会の開催など、着実に地域に溶け込む努力を重ね、これに呼応して地域住民からは日常的に草取り、雪かき、野菜等の差し入れや避難訓練への協力、見守りなど、暖かい支援があり自然な形で活発な交流関係が築かれている。更に日々のケアについてもきめ細かく行いながら、必ずその結果を点検するなど、ケアの実践に工夫が見られるとともに、常に利用者の言葉に耳を傾けて、その思いや願いを汲み取り、引き出す努力をしながら、可能な限り利用者が行きたい所に出かけ、会いたい人に会えるよう支援している。また、ホームの特色として利用者の入居後の日々の暮らしの様子を丹念に撮影して一人ひとりの写真アルバムを作成しているが、利用者・家族に喜ばれている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム いわいずみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付く所に掲示し、部署目標も全職員で話し合い決定し共有し実践に取り組んでいる。	平成15年9月開設と歴史があるが、新たな視点での理念の構築を目指し、職員間で話し合い改めたほか、その実践に向け目標とその手段を定め、更に利用者とのコミュニケーションを深めながら理念に即した取り組みに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し行事等参加しコミュニケーションを図り顔なじみになり、日常的に交流を深めている	地区子供会の行事計画の中にホームとの花火大会が計画されるなど身近な存在となっている。普段から広報を地域に配布し理解を深め、清掃行事に参加するなど地域に溶け込み、近隣からは野菜等の差し入れや草取り、雪かきの等の暖かい支援があり、地域の人達とのつながりの中で暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの広報を年4回発行し地域や町内の施設等にも配布し回覧している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見交換や情報交換又電話での相談も密に行われており改善点は取り入れている。ホームの活動や現状も報告できている。	メンバーは自治会長や民生委員、町職員、消防団、近隣住民、家族で、協議内容はホームの活動状況や事業計画、入居者の状況等を中心に行われ、新聞等で全国的に話題となった認知症の方の行方不明等の情報交換を行っている。	会議を通して地域の理解・協力の輪が着実に広がっていることが窺えます。今後は更にホームの機能、役割を活かし周辺地域との繋がりを深め、地域が元気で楽しく住める支える仕組みづくりの話し合いに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に月1回参加し町の動向を聞いたり、ホームの推進会議に参加頂き、電話等でも協力関係を築き運営や入居者情報等、連絡相談が出来ている。	行政とは運営推進会議や地域ケア会議の場でホーム運営やケアの状況を伝えて助言を頂いているほか、相談や照会、諸申請手続き等がある場合は、随時電話や訪問を通してその都度丁寧な指導・助言を頂く関係をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会もあり、全職員で話し合い意識をもち拘束をしない事があたりまえとなっている。	系列の5ヶ所ホーム間の「身体拘束廃止委員会」への参加や所内勉強会を通じて、身体拘束や言葉による拘束をしないケアの理解・認識の徹底と実践に努めている。利用者が外出しようとする場合は同行したりしながらそっと見守る姿勢で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや勉強会で学習して虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している入居者がおり、関係者と相談し制度についても再度確認し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時説明に理解を頂き退居時には不安の無いよう次の施設との連携をはかり納得いく説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の誕生会・家族忘年会・バーベキューなどの時日ごろ感じていることや、疑問に思っていることなど話してもらい運営に反映させている。	利用者との日常の会話や、家族が来所するケア計画見直し際や、利用者の誕生会、家族忘年会など、様々な機会を捉えて要望や意見を聞くよう努め、運営やケアに活かすよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やカンファレンス等で職員の意見交換をしている。	毎月の業務推進会議やカンファレンスなどの機会を通じて運営、管理全般について話し合いを行い、例えば冬場の夜間時の寒さ作業環境の改善としてキャスター付きのファンヒーターを設置するなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談で意見を聞き、個人目標を設定し個々の意見を尊重し、突然の有給も職員の確保できるように同法人のグループホームに応援対制もでき実践につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の勉強会や個々に合わせた研修会へ参加し、学習できる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修や町内の行事に他グループホームと一緒に参加し、交流を図り沿岸北ブロックの会議では情報交換し実践に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査、面接時に意向を確認し入居後は日常生活の中でも会話や行動から要望、不安をくみ取るよう努力し家族と連絡を取り状況報告をし相談している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族と連絡を取り、状況報告をし要望を聞き入れ相談し合う関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と連絡を取り、相談し状況報告をし要望を聞き入れ相談し合う関係作りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ出来る事を見つけ、持っている力、知識を發揮してもらい感謝の言葉を伝い合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのつながりが途切れないように状況等を伝えたり、来所できない家族には電話で会話したり本人希望で自宅へ行って来られるように支援出来ている。親戚や兄弟等の連絡や電話もテレビ電話を活用している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や息子さんの店に出かけたり、行きつけの店に買い物に出かけたり、自宅での環境に近い居住空間を作り、馴染みの物を居室に置いている。自宅にある地区行事に出かけ知人に会うことが出来ている。	利用者の会いたい人や行きたい場所の把握に努め、家族や親戚・兄弟の協力も得ながら知人・友人のところに出かけたり、来てもらったりする支援をしている。なお、町が設置したテレビ電話で孫など家族との語らいも楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	椅子の置き場所に配慮し入居者が気の合う同士集まり話が出来場所を作っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退去しても見舞いに行ったり、次のサービスにつなげるように他事業所と連絡、調整を図り家族、病院との連携を取りパイプ役になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話から本人の気持ちをくみ取り、時には、ご家族と入居者の意向に違いがあり難しいと感じているが、出来るだけ本人本位の意向を優先し支援に努めている。	普段の会話や表情を通じて利用者の思いや意向を把握・記録するいわゆるセンター方式を採用しているほか、職員の日々のケアやモニタリングの中から利用者の希望や思いなどを汲み取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用したり、ご家族や本人からの聞き取り、入居前のケアマネより情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の好みにより居室の配置を考えゆくり過ごせるようにし、一人で過ごしたい方・ラジオを毎日同じ時間に聞きたい方、掃除や食事の準備等本人の持っている力を発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には必ず家族に意向を確認し、本人の日常生活の中から訴えをくみ取ったり、日常の行動から、毎月の業務会議の中で職員全員で意見交換し検討している。	ケア計画は利用者・家族の意向を踏まえ、本人本位のきめ細かな支援を基本とし、その実践と確認のためチェック項目が記載されたプランチェック表により日々のケアの状況、評価しながら取り組んでおり、利用者・家族にも説明し理解・納得を頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日誌や個人記録・チェック表で記録し申し送りに情報共有し評価表も回覧し全職員で計画の見直しをし、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望意向に応じ身体の変化にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり散歩に出かけ、外出することで声をかけられ見守りを受けている。近隣の方々と顔見知りになり季節の苗等頂き、植え方などアドバイスを受け、楽しく元気に過ごせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院には職員が同行し必要な受診ができおり、緊急時も適切な医療が受けられている。	医療受診は本人・家族が希望するかかりつけ医で町内の病院の利用が多く、受診対応の多くは職員が同行している。受診結果や状況は家族に電話で丁寧に伝え安心感を持っていただけるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師やほほえみの里の看護師にも相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ご家族を交え医師、看護師と相談し、状況が変わった時も面会時や電話で看護師と情報交換をし相談できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化が見られたときなど、その都度、ご家族に連絡をとり意向を確認している。	重度化や終末期の支援については、利用契約時に本人・家族に対し、医療行為を除いて最大限可能な支援を行うことを説明し理解を得ているとともに、利用者の状況に応じて本人・家族と話し合い、医療機関と連携しながら適切に支援していくこととしている。	今後の一層の高齢化の進展を踏まえ重度化及び終末期への支援要請の高まりが予想される中で、改めて今後どのような方針で取り組むか、職員間で十分話し合い共通認識の下で取り組まれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急通報訓練や救急講習を受講し心肺蘇生法を学び、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い全職員が日頃から意識をもっている。近隣住民の方々からも協力も得られ緊急時に駆けつけ頂いたり、緊急時自宅に一時避難させて頂き協力体制ができている。	避難訓練は、夕方の18～19時の職員が少ないときとか、眼が見えない方への対応など、様々なケースを想定しながら実施している。近隣住民も駆けつけて支援協力の体制が築かれているほか、また近くに住むスタッフの緊急時の対応づくりも進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴をくみ取りプライバシーを傷つけないよう声がけや会話にも配慮している。入浴にも脱衣所に仕切りのカーテンを取り付け必要時使用している。	年長者として敬い自尊心やプライバシーを尊重した丁寧な言葉使いや対応に普段から心掛けており、業務会議等で振り返りながら、気づいた点を注意し合い、うまくいった事例を紹介し合ったりしながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選べるよう声がけしたり、家に帰りたいと言う時は、一緒に外に出たり、家族に電話をかけたい時には、ダイヤルし希望を叶えられるような声がけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分により掃除をしたり、外出希望時付き添い、読書や洋裁など無理なく過ごせるよう個人のペースに合わせ希望を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んで購入し、乳液やヘアクリーム等購入し身だしなみが出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事にあわせ節句など楽しく食事が出来るよう作り方など入居者様に尋ね一緒に工夫して作っている。	献立には利用者の希望を反映している。食材は週3回、利用者と一緒に買い物に出掛けているほか、畑で作ったナスやピーマン等、また近隣から買った野菜を調理している。利用者全員に何かの役割をもって調理、加工、下拵え、テーブル拭き、後片づけ、茶碗拭きなど、食事づくりに関わるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の入居者の為栄養師に指導を受けバランスが取れた食事になっている。量・質を考え硬い物を噛めない人には刻み食や代替えの物を準備したり麺を好まない人の為にパンやおにぎりを出している。又、水分量記録を見て不足な時は好みの物ですすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に対応し歯間ブラシや舌ブラシ等準備し汚れが残っているときは、介助で口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握し自立しない入居者には、時間の間隔を確かめ声をかけ誘導している。	個々の排泄パターンとサインを共有しながら、こまめにトイレ誘導しながら、羞恥心や不安を覚えずに気持ち良く排泄できるよう支援している。この取組みにより、リハビリパンツ着用からパットのみの使用に改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し水分や食材で対応したり体操をし体を動かし腹部マッサージ等も行い予防にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は決まっているが一人ひとりの体調や希望により楽しみながら入浴できるようタイミングや順番に配慮しながら支援している。	入浴は週3回、午後としている。時々入浴剤を入れたり、しょうぶ湯などを楽しんでもらっている。入浴中は自然に歌が出たり思い出話が出るよう雰囲気づくりに配慮している。気乗りのしない人には時間をかけてタイミングを捉えるなど、工夫しながら支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今年度全て遮光カーテンに切り替え、照明にも気を配り、朝から寝たい方、昼寝をしたい方の個々の対応している。夜間はパジャマに着替えゆったり気分で眠れるよう気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が来所し薬の副作用や身体の構造について勉強会を定期的に開催し実践に繋げている。入居者の服薬は確認と症状観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暦をめくり、野菜の下ごしらえや野菜を切ったり、食器洗いや個々の力に合わせ行っている。飲み物も熱い緑茶ブラックコーヒー甘いコーヒー等希望の物が飲めている。気分転換にドライブに出掛けられている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑仕事収穫、花壇の世話、散歩、柿取り、栗拾いや本人の希望で買い物、ドライブや、お盆にご家族と墓参りに出かけたり、地域行事や知人の面会にも出掛けられている。	日常的に緑豊かなホーム周辺を散歩し近隣住民と挨拶を交わしている。また、出来るだけ利用者の希望を引き出しながら、買い物やドライブ、季節の花見・紅葉見物、祭り見学、外食、墓参りなど、時に家族の協力も得ながら外出を楽しめるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様は本人が所持しているが、残金は確認し記載している。ご家族希望で事務室で預かり外出時や買い物時使用出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望で電話をかけたりご家族からの電話を取り次いだり、難聴の方には音量調節の出来る電話を使用しスムーズに会話でき楽しむ事が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節に合った飾り物を飾り季節感を味わっている。外の様子も窓越しにソファを置き目で見て季節を感じている。	天窓からの採光で明るい。広いホールには食堂、居間、畳敷きの小上がりがゆったりと調和して配置され、居間には季節の花や金魚鉢も置かれている。壁には切り絵や習字等の利用者作品、利用者全員のホームファミリー写真、絵画などが程よく飾られ、温かい雰囲気のもとで過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に全員座れるソファを置き玄関や、ホールに椅子を置き気の合った方と過ごせる場所を作り会話できている。読書の好きな入居者は居室で本が読めるよう配置し穏やかに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し居室にテレビを置いたり自宅と同じ状態の椅子を配置し、ラジオをいつでも聞いたり、仏壇に花を飾り、ベッドの位置も本人の希望で模様替えでき好みの部屋になっている。	居室にはベッド、クローゼット、スチーム暖房器のほか洗面台も備え付けられ便利である。部屋には馴染みの置物やテレビ、位牌などのほか、人形や手作り作品、家族写真などが飾られ、思い思いに居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には名前をつけ食卓テーブルや下足にも本人が迷う事無く分かるよう名前を付け分かるようにしている。		